平成29年度　第2回桜井市学校規模適正化検討委員会　会議録（概略）

1　日　時

平成29年　6月27日（火）9:30～11:00

2　場　所

中央公民館　2階　研修室1

3　出席者

（1）委員（8名）

岩本廣美委員，宮村裕子委員，今谷浩二委員，片木伸光委員，山下貴司委員，中西豊委員，奥田勝彦委員，奥田道明委員

（2）事務局（2名）

河合課長，米田アドバイザー

4　会議の成立

委員10名中、8名出席で、委員の過半数が出席しているため、桜井市学校規模適正化検討委員会要綱第6条第2項の規定により会議が成立

5　協議事項

（1）議事

①桜井市における学校の現状

②校区別将来人口の推計

③学校適正化に関する課題

④その他

6　資料

・次第

・委員名簿

・平成 29 年度　第 1 回桜井市学校規模適正化検討委員会　会議録〈概略〉

・桜井市における学校の現状

・校区別将来人口の推計

・学校適正化に関する課題

7　協議内容

（1）議事

①桜井市における学校の現状

ア　中学校の部活動について

・部活動が少なくなると、希望する部活動がないという状態が生じる。場合によっては、仕方なく他の部活に入っている。

・中学校体育連盟の規約では、引率がいれば大会に出場できるため、水泳や硬式テニス等の個人種目の場合は、部活動を継続することができる。ただし生徒が減少すると、教員の数も減少するため、顧問もいなくなり、部活動がなくなっていく。サッカーや野球等の団体種目は継続が厳しい状況にある。団体競技によっては、一校だけではなく、複数の学校でチームをつくるか、

奈良県が指定した自治体と組んでチームをつくっている。
・新たな部活動の設立の要望もあるが、施設や安全面、顧問の配置等、検討して難しい場合は、設置していない。
・桜井西中学校のソフトボール部は、一昨年は広陵町立真美ヶ丘中学校、現在は奈良市立三笠中学校と合同チームを組んでいる。野球部は、一昨年までは、大三輪中学校と桜井東中学校、桜井西中学校と合同チームを組んでいた。今年は単独でチームを組むことができたが、大三輪中学校は宇陀市の中学校と合同チームを組む予定となっている。ソフトボール部やバレーボール部等は、全国的に部員が少なくなっている。
・部活動については、社会体育に移行しようという意見が出ている。社会体育で活動している生徒の希望を叶えるため、合同チームや学校に部活動がなくても引率者がいれば、大会出場を認めている状況にある。生徒のニーズに合わせた部活動の設置は、人数的に厳しいので学校が苦労している。
・希望者を募り、高等学校の部活動に参加してもらうことはある。また奈良県の事業とタイアップして、生徒会が呼びかけることもある。
イ　防災や保育等について
・地域活動においては小学校区単位で行っていることが多い。避難所開設にあたっては、地域の方々がそれぞれ主体的に活動していくのが通常だが、学校側にも協力いただき、体制を整えている。

②校区別将来人口の推計
ア　校区別の児童数の推計結果について
・直近の児童生徒数については実績値を使用している。しかし、平成44年以降については、推計値のみとなるが、減少傾向が続くかたちとなる。
・平成42年以降の人口の推移は、どのように捉えればよいのか非常に難しいが、小中学校の学校規模適正化の議論を進めるうえでは、重要な要因である。

③学校適正化に関する課題
・前回の検討委員会で、小規模校のメリット・デメリットについて議論をしたが、どこに視点を当てるかが重要と思う。資料は行政側の視点でまとめられている。学校は子どもありきのものなので、どのような視点で進めていくべきかの議論が大事だと思う。
・今回の検討委員会の中で、修正事項があればそれを反映したかたちで資料を修正し、それを踏まえ、次回の第3回検討委員会に向けて、方針の骨組みをつくっていく。
・児童生徒からの視点は、とても大事な視点であり、学校規模適正化を進めるにあたり、桜井市オリジナルをつくる必要がある。全国的には、ファシリティマネジメントの一環として、小中学校の統廃合を進めていくという流れがあるが、地域からはなかなか理解を得られない。基本方針を策定していく中では、小規模校のメリット、特に桜井市の地域に特化した考え方を入れていく必要があると思う。最終的に検討委員会からの答申には、そのような文言を入れていくかたちが望ましい。
・学校の適正化を進めるのにあたり、小さな学校のメリットを活かしていく必要がある。「多様な教育形態についても検討する」ということは、小学校同士を統合するだけではなく、小学校と中学校を統合する小中一貫校もある。小規模校どうしを統合して新しい教育形態をつくり、小規模校のメリットを活かし、デメリットを薄めていくことも視野に入れている。すぐには小

中一貫校や特任校を進めていくのは難しいと思うが、そのことも検討しつつ、小規模校のメリットを活かせることも研究しなければならないと考える。

・桜井市の学校規模適正化については、義務教育９年間を見通した、桜井市の学校教育をどのようなかたちに持って行きたいのか、「魅力ある学校づくり」というイメージをもう少し入れた方がわかりやすくなるのではないか。

・資料では、人数等の数値の資料が多く、学力等についてまったく触れられていないため、教育の現状とか、これから先どうなのかというところがわからない。

・全国的に小中一貫校というかたちで運営している学校があると聞く。桜井市では桜井東中学校が最も老朽化が進んでおり、向かい側にある初瀬小学校は小規模化が進んでいる状況にある。ひとつのかたちとして、同じ校舎の中で小学校と中学校がある等、新たな視点を取り入れても良いのではないかと思う。

・奈良市では、早くから小中一貫校、９年制の学校を推進している。ある小中一貫校では、小中学校の職員室が一緒になっていて、教員の風通しが良く、中学校の英語の先生が小学校に指導に行く。

・通学方法では、保護者からの意見として、安心・安全である通学をお願いしたいと言われる。このため、３つ目の課題として、「安心・安全な通学ができる通学方法を検討する必要がある。」と、するのはいかがか。